

群 教 七	F08 - 01
	令元. 272集
	生徒指導

自分のよさを生かし、 意欲的に活動できる児童の育成

— 「よいところ探しシート」を用いた話し合い活動と、目標の設定と振り返りを一体化させた「ステップアップカード」の活用を通して—

特別研修員 荒平 和世

I 研究テーマ設定の理由

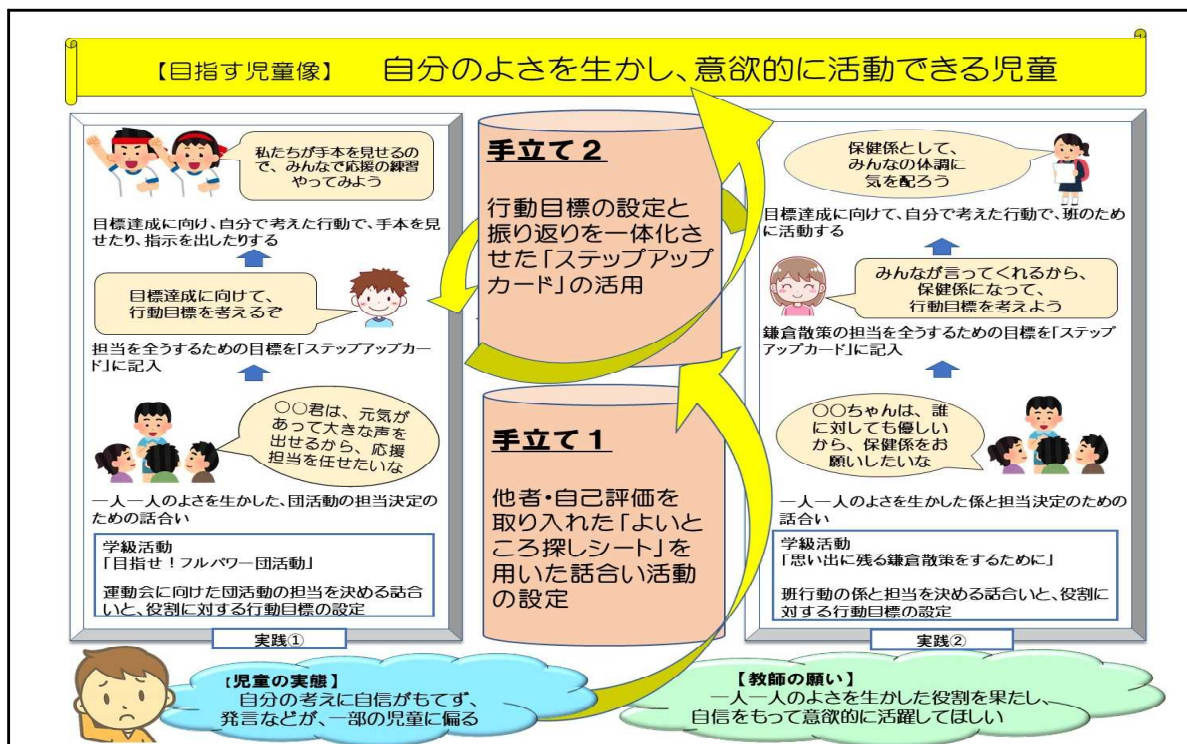
平成31年度学校教育の指針（群馬県教育委員会、平成31年4月）では、学級経営・生徒指導において、全ての児童生徒に対して「学級経営においては、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用を生かした支援・指導に取り組みましょう」と示されている。

平成31年4月に本学級児童を対象に自己肯定感を図るためのC&Sを行った。「自分自身に関するアンケート」の項目「2 私は、クラスの前では、大変話しにくい」では、学級の30%以上にあたる11人が、「あてはまる（4名）」及び「ややあてはまる（7名）」と答えた。授業中では、発言する児童に偏りが見られ、要因として、自分の意見が受け入れられないと考えたり、間違いを恐れて発言しなかったりすることが挙げられる。また、平成31年4月に行った「友達のよいところ探し」では、他者に目を向ける経験の少なさから、友達のよいところに気付けない児童が大半であった。これらのことから、本学級の児童に対して、互いのよさや可能性に気づき、人に認められたことによる自己有用感を育むことで、発言や行動に自信をもてるようにすることが望まれる。

そこで、「よいところ探しシート」を用いた学級活動と、事後の活動において、自分のよさを生かした担当としての役割を「ステップアップカード」を用いて繰り返し振り返らせることで、意欲的に活動できる児童を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

本学級には、課題に対して取り組み、考えや意見をもつことはできても、自信がもてず、他の児童と自分を比較して、発言を控えてしまう児童が30%以上見られる。

そこで、互いのよさや可能性を認識し、それを生かした役割を果たすことにより、意欲的に活動できる児童を育成したいと考え、以下のような手立てを講じた。

手立て1 自己評価、他者評価を取り入れ、個人のよさを生かした担当を意思決定するための話し合い活動の設定

学級活動の事前の活動として、「よいところ探しシート」を使った自己評価、他者評価を行い、それをもとに、一人一人の担当を意思決定する話し合い活動を設定する。互いのよさを伝え合いながら話し合うことで、児童が自分のよいところを認識し、友達の意見に支えられながら、意思決定できるようにする。「よいところ探しシート」は、ポートフォリオとして蓄積することで、自己有用感を高め、個人のよさを生かした役割を意思決定する際のよりどころにできるようにする。

手立て2 目標の設定と振り返りを一体化させた「ステップアップカード」の活用

「ステップアップカード」に以下二種類の目標を書くことで、児童一人一人が集団の中での活躍の場面を意識し、また、集団の一員であることを認識できるようにする。

- ① 集団の目標達成に向けた、担当としての具体的な行動目標
- ② よりよい集団にするための、他者との関わりに焦点を当てた行動目標

活動ごとに「ステップアップカード」での振り返りと他者評価を行い、自分自身の課題を見付けたり努力を認めてもらえたりできるようにする。それを生かして、次の活動時の目標を設定する。これらを繰り返し行い、カードを蓄積することで、集団の一員としての活躍の場面を意識し、活動に対する意欲を高められるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「よいところ探しシート」を用いた話し合い活動では、友達からの評価と自分の考えとを照らし合わせたり、意見の違いを踏まえ、自分の考えを見つめ直したりすることを通して、友達から認めてもらえたという自己有用感に支えられながら、役割を自ら決定することができた。そして、活動ごとに「ステップアップカード」で目標の設定と振り返りを繰り返し行い、カードを蓄積することで、自分自身のよさに気付いたり、努力を認めてもらえたりすることにつながり、次の活動への意欲を高めることができた。
- 2回目のC&S（11月実施）の「自分自身に関するアンケート」の項目「2 私は、クラスの前では、大変話しにくい」で、「あてはまる（0名）」及び「ややあてはまる（5名）」と答えた児童は、約14%に減少した。この結果は、一人一人がよさを生かした担当としての役割を全うし、活躍することで、自己有用感が高まり、自分に自信をもてるようになったからであると考えられる。
- 学級担任として、一年間見通しをもって計画的、継続的に取り組んだことで、児童の自己有用感が高まり、自信をもち、意欲的に活動できるようになったと考える。

2 課題

- 役割を全うするための具体的な行動目標と、よりよい集団にするための、他者との関わりに焦点をあてた自分自身の行動目標を考える活動において、「尾瀬学校」や「修学旅行」など、経験のない場面においては、児童は状況を想起しにくく、目標に具体性をもつことができない場合があった。情報を与えるなど、細やかな個別の支援や言葉掛けをしていく必要がある。

実践例

1 題材名 「目指せ！フルパワー団活動」(第6学年・1学期)

2 本題材について

本校では、「高学年児童のリーダー育成を図る」「児童一人一人に活躍の場面を与え、自己有用感を高める」というねらいの下、全学年を四つの団に分け、年間を通して団活動を行っている。

6年生の児童は、異年齢集団をまとめることで、必要な言葉掛けや行動を考え、週一回の団活動を計画、運営していく。4月の生活目標では、「団活動を頑張りたい」という目標を書く児童が多く、意欲をもって学年をスタートした様子が見られた。実際に活動を進めていくと、最高学年としての自覚や意識をもって活動できるようになる一方で、団の最高学年という集団で評価をされていることが多く、積極的な声かけや行動などが、一部の児童に偏っていた。活動の振り返りの中で、「私がやらなくても誰かがやってくれるだろう」「何をやってよいか分からない」との反省が児童から挙げられた。

そこで、本題材で個人のよさに焦点を当て、役割を自覚し活動することは、異年齢集団の活動の中でやりがいを感じたり、友達や他の学年からの評価を受けたりすることにつながり、一人一人の自己有用感を高められると考える。

以上のような考えから、本題材では、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	自分のよさについて知り、それを生かした担当と行動目標を決定することができる。	
評価 規 準	集団活動や生活への関心・意欲 ・態度	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常の団の活動に取り組もうとしている。
	集団の一員としての思考・判断・実践	楽しく豊かな学校生活をつくるために、集団の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践している。
	集団活動や生活についての知識 ・理解	楽しく豊かな学校生活をつくる集団活動の意義や組織、そのための活動内容、方法などについて理解している。
過程	主な内容	主な学習活動
事前の 活動	問題の発見 問題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> ・団活動における課題や不安を共有する。 ・団ごとにスローガンを決定する。 ・課題や不安に対しての解決策を話し合う。 ・よいところ探し(団活動編)をする。
本時	伝え合う 話し合う 意思決定をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「よいところ探しシート」をもとに、互いのよさを伝え合う。 ・自分の意見と友達の意見、団としての機能と照らし合わせながら、担当を決めるための話し合いをする。 ・話し合いを踏まえて、担当を決定する。 ・担当としての具体的な行動目標と他者との関わりに焦点を当てた自分自身の行動目標を「ステップアップカード」に書く。
事後の 活動	実践する 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を意識して、団活動に取り組む。 ・「ステップアップカード」で、自分の実践を振り返る。 ・団の友達や団担当の教員に評価をしてもらう。 ・次の団活動の目標を設定する。
	(行事)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してきた活動や振り返りを生かして、運動会に臨む。
	振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・「ステップアップカード」で、自分の実践を振り返る。 ・団の友達や団担当の教員に評価をもらう。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、友達に認められているという喜びを感じながら話し合うことで、担当について自信をもって意思決定できるよう、次のような手立てを設定して活動を行った。

手立て1「よいところ探しシート」をもとにした話し合い活動の設定

事前の活動として、団のスローガン達成のために、団活動や運動会に関係する内容で、よいところ探しを行った。本時では、付箋に書いた団の友達のよいところを互いに交換し、友達から見た自分のよさを知り、自分の意思も踏まえて担当を考え、決定できるようにした。また、ネームプレートを用いてホワイトボードに意思を表示し、視覚的に捉えられるようにすることで、一人一人の意思と、団としての機能とを兼ねあわせた話し合い活動をし、担当を意思決定できるようにした。

手立て2「ステップアップカード」の活用

二種類のカードを活用することで、自己の振り返りと他者評価を繰り返し行っていくことを認識し、自分自身の課題を見付けたり、努力を認めてもらったりすることで、次の活動に対する意欲を高められるようにした。

- ① 自分のよさを生かした担当としての具体的な行動目標
- ② よりよい集団にするための、他者との関わりに焦点を当てた行動目標

4 授業の実際

(1) 事前の活動

- ① 最初の団活動における課題や不安の共有・スローガンの決定

最初の団活動での反省会の後、指示の出し方や集団を動かすことの大変さなどの課題や不安を共有した。その上で、今後活動をしていく指針として、競技で勝つことと団結の二つの要素を盛り込んだ団の理想の姿を考え、スローガンを決定した。

- ② 課題や不安に対する解決するための話し合い

課題や不安を解決するためにはどうしたらよいかを団ごとに話し合い、それぞれが出した意見を全体で練り上げ、「担当を決めて準備を進め、活動をする」ことを決定した。団の担当を決めるにあたり、どのような方法がよいかを考えさせ、以前から取り入れている「友達のよいところ探し」を基にすることを確認した。

- ③ よいところ探し（団活動編）

団の担当を決めるもととなるよいところ探しでは、競技に関すること（体育の授業や体育系の行事、休み時間の様子など）と集団の中での発言や行動（学級会、授業での発言、休み時間の様子など）の二点に絞った「よいところ」に焦点を当て、行った（図1）。

(2) 本時の活動

- ① 「よいところ探しシート」をもとに、互いのよさを伝え合う。

友達から自分のよさを教えてもらうことで、自信をもって意思決定ができるようにするために、事前の活動として行った「よいところ探しシート」をもとにして、一人一人のよさについて伝え合う活動（図2）を行った。

- ② 自分の意見と友達の意見、団としての機能を照らし合わせながら、担当を決定するための話し合いをする。

自分の希望する担当と、友達が教えてくれた自分のよさの両面から考え、一人一人が意思決定し、「どうしてその担当をやろうと思ったのか」の理由を加えながら、ネームプレートをホワイトボードに貼っていった。『担当表』に貼られたネームプレートを見て、人数に偏りが生じた場合などについては、一人一人のよいところをもとに、折り合いをつけながら話し合った。

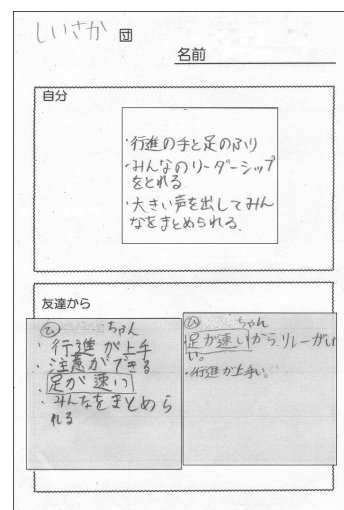


図1 よいところ探しシート



図2 よいところを伝え合う場面

③ 話し合いを踏まえて、担当を決定する。

話し合いの内容を踏まえて、自分の担当について再び考え、意思決定(図3)をした。一人一人のよいところをもとにすることで、一人で複数の担当になったり、誰もいない担当については、みんなでやることなどを決定することができた。



図3 意思決定の場面

④ 「団のスローガン達成に向けての、自分のよさを生かした具体的な行動目標」と「他者との関わりに焦点を当てた自分自身の行動目標」を「ステップアップカード」に書く。

決定した担当を全うするために、指示の出し方や手本の示し方など、具体的にどんな活動をするかを考えた。同じ担当同士で、実際に動いてみたり、必要なものを書き出してみたりするなどの姿が見られた。

また、団活動では、「団のまとまり」や「6年生としての行動」など、団のスローガン達成を意識しながら、「後ろから声をかける」「小さい子のとなりに行って、一緒にやってみる」などの具体的な目標を書くことができた。

(3) 事後の活動

① 団活動の取組と振り返り

「ステップアップカード」に書いた目標の達成に向け、担当の児童はビブスを着て、準備した練習メニューや言葉かけを積極的に行う姿が見られた。活動後には、「ステップアップカード」で、自分の実践を振り返り、成果や課題を見付けることで、次の活動への意欲を高めることができた。

② 団の友達や担当の教員からの評価・次の団活動の目標の設定

振り返りを書いた「ステップアップカード」を団担当の教員や同じ団の友達に渡し、他者からの評価をしてもらうことで、客観的に自分のよさや課題を認識し、次の活動への目標を書くことができた。

5 考察

本時では、「よいところ探しシート」をもとに、一人一人のよさを生かした担当を意思決定できるよう、話し合いを設定した。自分のよさに気付けなかったり、自信がもてなかったりしていた児童も、友達からよいところを伝えてもらうことで自分のよさを認識し、迷いなく全員が担当を意思決定することができた。また、「ステップアップカード」に目標を書くことにより、児童は活動への見通しをもって準備を進め、活動当日も目標に向かい、意欲的に行動する姿に変容した(図4)。



図4 団活動の様子

本学級の児童は、1学期から行事や活動前後によいところ探しを継続して行ってきた。初めは、友達のよいところに気付かず、書くのに時間を要していたが、運動会に向けたよいところ探しでは、たくさんのよいところを時間をかけずに書くことができる児童が大幅に増えた。よいところ探しのポートフォリオファイルは、「幸せファイル」と名付けられ、その後も意思決定の際のよりどころとなっている。「ステップアップカード」での振り返りには、「大きな声で初めて指示ができた」「二列にして話した方が、もっと指示が通りやすかった」など、具体的な成果や課題が記述されてきた(図5)。このような姿から、児童は、自分のよさに気付き、それを生かした担当としての役割を全うしていく中で、自分は集団の一員として必要な存在であるという自己有用感を高めることができ、意欲的に活動することができた。今後もこの手立てを、計画的に継続して行っていきたい。

目標「気配りをし、みんなをまとめる」

権坂 団 ステップアップカード(運動会当日)	
名前 ()	
振り返り	
低学年が教えている時に回りを見て注意することかできた?	☺ ☺ ☺
みんなが戻らない時に、担当していることもまとめることができた?	☺ ☺ ☺
よかったところ かんだたよと最後に思えて良かった	
課題(反省点) また、権坂団が優勝できるようにがんばってほしい。	
担当の先生から いろいろとこに気を配りかんはれたと思いき、そのおかげで優勝できたと思えます。優しく時にはきいてあげてください。	

図5 ステップアップカード